ICU「法哲学」2019 年度冬学期・期末レポート課題

吉良 貴之（法哲学）
jj57010@gmail.com
LINE, twitter: tkira26

課題： 授業全体の目的・内容の理解を踏まえ、自由にテーマを設定して論述せよ。
分量： 3000 字以上。英語の場合はそれに相当する量。
〆切： 2020 年3 月9 日（月）17 時 厳守（翌日が成績〆切なので、これ以上はダメです）
提出方法： ワードファイルをメール添付。ワード以外のソフトを使う場合はPDF にして、一般的に読める形式でお願いします。メールはjj57010@gmail.com とtkira26@yahoo.co.jp の両方に同じものを送ってください。すぐに受領の返事をしますが、翌日になってもない場合は、電話やLINE（tkira26）、Facebook メッセンジャーなどで確認してください。

- 事情により他の提出方法を希望する方は、事前に相談してください。

評価基準：

1. テーマ設定の適切さと独創性： 授業内容を踏まえた上で、独創的な問いが立てられているかどうか。
2. 先行研究の適切な評価： 自説を押し出すだけでなく、賛否両論を適切に評価できているかどうか。

備考：

- 例年、同様のテーマのレポートが多く出される傾向にあります。テーマが他人とかぶっていてもそれだけでは減点しませんが、論述の説得力がより強く求められると思ってください。すぐに思いつくテーマは、論述もありきたりになりがちなので、十分な注意が必要です。どちらかというと、他の人が書かないような面白いテーマ設定をしてやろう、という心意気があるほうが望ましいです。
- テーマは、抽象的な概念分析を行うものから、具体的な法政策や社会問題を素材に哲学的な思考を行うものまで、広く認めます。
- 参考文献はアカデミック・ライティングの作法にのっとって、適切に示してください。文献がまったくあげられていない場合はそれだけで不合格となります。盗用・剽窃は不正行為となります。
- 例年、憲法学の文献しか参照していないレポートが多く見受けられます。憲法学の文献を参照することはもちろん望ましいのですが、法哲学の授業ですので、法哲学（または政治哲学、倫理学など関連の深い分野）の文献を適切に用いてください。
- 法哲学の論文を掲載する論文集・雑誌としては、『法哲学年報』、『法の理論』、『法と哲学』などがあります。バックナンバーをざっと見て、法哲学的なテーマ設定、論述の進め方の感覚をつかむようにしてください。『法哲学年報』は一部、ネット公開もされています。

- テーマ設定、論述の進め方、参考文献の選び方などで不安や質問がある場合は、遠慮なく質問してください。〆切1 週間前までであれば詳細なコメントが可能です（直前だと短いものになります）。
- 例年、添削を受けて拡充したレポートは完成度が飛躍的に高まる傾向にあります。文章を書くときは必ず他人の目を通す、というのを意識してほしいと思います。